

【令和元年度「旭区区政会議」委員意見より】

○保護者による教育について

- ・何人か母子家庭の方に話をきくと、こどもの教育の意識はまだまだという現状でした。区の取組みも知らないし、余裕もないとのお話でした。祖父・祖母が近くにいる人はいいが、いない人は子どもさんが熱出したときとか一体どうしてるかいうと、仕事もなかなか休めないし、下手したら家に1人でほっとくとの話もありました。いつでも声掛けてねってという話はしました。地域にパイプや情報などない中で暮らしている人がたくさんいらっしゃると思うとすごく胸が痛くなる。親がどう子どもに関わっていくかがこれからの課題と思います。
- ・4年か5年生ぐらいの子はずーっと1日中パソコンかタブレットで遊んでいる。お母さんにどうにかしたらと言っても、こうするしか子どもをおとなしくさせられないとの感じでおっしゃったので、すごく悲しいことと思いました。

○課題のある児童・生徒の対策について

- ・中学校での不登校の生徒が思っていたよりも多い。小学校では1学年に1人必ずいる。現状を聞かせてもらったときに、その生徒が高校生になられたら、果たしてその生徒を追っかけて指導ができるのかなと心配します。組織での見守りをお考えいただければありがたい。
- ・卒業生に対しても自習室を提供し、中学生と同日程で学習相談支援を行うことは、卒業されても他に居場所が見つからないこどもたちに、続けるの支援をするのは素晴らしいと思う。中途退学が、高校生は大変多いって聞いているので、支援していただけるのはいいことだと思う。
- ・子どもの自立支援を育むための事業として、説明とか講師をされた企業側にとっても満足のいくものになったか、生徒のアンケートを講師の方たちへお知らせし、今後も職業の紹介を続けてしていきたいなと思えるような内容であればいいと思う。

○児童の体力・運動について

- ・子どもたちの80%近く外で遊ばないというデータがあったと思うけれども、家に帰ると外で遊ばず家の中でゲームをしたりとかして、体を使うことがないと思う。じゃあどこで体を使うかといえば、学校の休み時間とかに校庭内を遊具とかで遊ぶことで、自然と体力を身に付けてきたと思う。今、運動場は広くなってはいるが、遊具が、事故等の影響で登り棒が、滑り台が、ジャングルジムも、と子どもたちの遊べる物がなくなりました。その場合はもう体力がなくなっては当然なのかなって思うので、学校内の遊具を区役所予算で増やすのは多分無理だと思うけれども、

公園とか、できることがあれば考えていただけたら。

○教員の資質について

- ・基礎学力を身につけられるよう、先生も一生懸命、指導してると思うけれども、もっとしっかりと見てあげてほしいと思います。

○その他

- ・効果測定に「感じた割合」ではなく他の数字を出されるのもいいかと思う。